

厚生・産業常任委員会 県外行政調査

1 調査日 平成25年11月5日(火)～7日(木)

2 調査の概要

11月5日(火)

(1) 鹿児島県議会(鹿児島県鹿児島市)

調査事項：エネルギー施策について

本県では、平成25年3月に地域レベルで取り組み可能な再生可能エネルギーの導入促進と本県に集積する関連産業の振興を戦略的に推進していくために、「滋賀県再生可能エネルギー振興戦略プラン」を策定し、同プランに沿った各種施策に取り組んでいる。

鹿児島県においては、平成13年度に策定された「鹿児島県新エネルギー導入ビジョン」に基づき、地域特性を生かした温室効果ガス排出が少ないクリーンなエネルギーである太陽光発電などの新エネルギーの導入促進を図られてきたところであるが、地球温暖化対策が急務であることに鑑み、新エネルギー導入の基本方針や新たな導入目標を掲げ、地域特性を生かした新エネルギーの一層の導入促進を図ることを目的として、平成23年度に旧ビジョンを改定され、平成32年度までを計画期間として、施策の展開を図られている。

そこで、本県における今後の取り組みの参考とするため、同ビジョンの概要や施策等について調査を行った。



(2) 鹿児島七ツ島メガソーラー発電所(鹿児島県鹿児島市)

調査事項：施設の概要と事業内容等(太陽発電事業)について

「滋賀県再生可能エネルギー振興戦略プラン」の「戦略プロジェクト編」では、家庭・事業所における「導入加速化」プロジェクトの目標の一つとして、メガソーラーの立地件数(累計)を平成22年度の0件から、平成29年度には30件とする数値目標を掲げている。

同施設は、京セラ株式会社などの「鹿児島メガソーラー発電株式会社」が運営する太陽光発電所で、発電能力は70MW、年間発電電気量は約78,800MW h であり、一般家庭電力量の約22,000世帯分に相当する国内最大級の太陽光発電所である。また、発電所敷地内に一般向けの見学施設も併設しており、電力の確保や地球温暖化対策のみならず、観光客誘致や地域振興にも寄与することが期待されている。

そこで、本県における今後の取り組みの参考とするため、同施設の概要と事業内容等（太陽光発電事業）について調査を行った。



11月6日（水）

（3）鹿児島県立始良病院（鹿児島県始良市）

調査事項：施設の概要と業務内容等（医療観察病棟の運用状況等）について

本県では、心神喪失または心神耗弱の状態で重大な他害行為を行った人に対して、手厚い専門的な治療を行い、再発防止と円滑な社会復帰を目指すために、厚生労働省が指定する医療観察法に基づく入院医療を引き受ける医療機関（指定入院医療機関）である医療観察病棟を、この11月に県立精神医療センターに開棟したところである。

同病院は、鹿児島県のほぼ中央に位置する始良市にあり、閑静な住宅地の中に立地する鹿児島県唯一の公立単科精神病院である。また、医療観察法指定入院医療機関の指定を受け、平成22年7月に医療観察病棟17床を開棟し、現在に至っている。

そこで、本県における今後の取り組みの参考とするため、同病院の概要や業務内容等（医療観察病棟の運用状況等）について調査を行った。



(4) 新曾木発電所(鹿児島県伊佐市)

調査事項：施設の概要と事業内容等(小水力発電事業)について

「滋賀県再生可能エネルギー振興戦略プラン」の「長期ビジョン編」では、2030年頃の地域における望ましい姿として、「農山村地域を中心として、小水力や木質バイオマス等をエネルギーとして利活用する取組が幅広く展開され、農林業の振興や地域の活性化が図られる」としている。

同発電所は、川内(せんだい)川の曾木の滝右岸に現存する旧曾木発電所の取水口、沈砂池を補強・改造利用した発電設備であり、曾木の滝の流量や落差を利用して、最大出力490kW、発電電力量は年間約400万 kWh と一般家庭約1,000軒分の使用量に相当する電力を供給する小水力発電所である。また、同施設は、小水力発電事業のみならず、再生可能エネルギーに関する学習型観光・教育啓発活動の推進および地域経済の活性化に寄与することも目的としている。



そこで、本県における今後の取り組みの参考とするため、同施設の概要と事業内容等(小水力発電事業)について調査を行った。

(5) 熊本県議会(熊本県熊本市)

調査事項：観光施策の推進について

本県では、現行の観光振興指針の計画期間が平成25年度で満了するにあたり、今後の観光振興に係る基本的な考え方を各関係者が共有し、相互に連携しながら効果的な取組を推進していくため、現在、同指針の改定作業中である。

熊本県では、県経済の成長と豊かな県民生活の実現を牽引していく上で、観光振興が重要であるという考えのもと、平成20年度に「ようこそくまもと観光立県条例」を制定し、その実行計画となる「ようこそくまもと観光立県推進計画」を策定され、現在、「『選ばれる熊本』～九州観光の拠点を目指して～」を目標に、九州の中央に位置する地理的優位性、自然や温泉、豊かな農林水産物、歴史・文化遺産といった熊本県における観光の強みを生かしながら、観光立県の実現に向けた各種施策を展開している。

そこで、本県における今後の取り組みの参考とするため、同計画の概要や計画に添った事業内容等について調査を行った。

調査事項：がん対策の推進について

本県では、平成25年3月に「がん対策推進計画」を改定し、今年度から平成29年度までの計画期間で、「がんの予防」、「早期発見」、「がんの医療」、「患者・家族の不安を解消する」、「患者・家族の生活と治療を両立する」の取組ごとに目標値を定め、取り組みを進めている。

熊本県では、「第2次熊本県がん対策推進計画」を策定し、平成25年度から平成29年度の計画期間で取組を進めており、同計画では、「がん患者を含む県民が、がんを知り、がんに向き合い、共に支え合う社会」を目指す姿とし、「『がんによる死亡者の減少』、『全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上』、『がんになっても安心して暮らせる社会の構築』」を目標に、「『がんの予防および早期発見』、『がんの医療体制の整備』、『がん患者およびその家族の療養生活の質の維持向上』」を主要分野として、施策の展開を図られている。

そこで、本県における今後の取り組みの参考とするため、同計画の概要や計画に添った事業内容等について調査を行った。



11月7日（木）

（6）熊本市子ども発達支援センター、熊本市発達障がい者支援センター（熊本県熊本市）
調査事項：施設の概要と事業内容等について

本県では、発達障害者に対する支援の取組として、県発達障害者支援センターにおいて、自閉症等発達障害に対する専門的な相談支援や療育支援を行うなどの取組が行われている。

熊本市子ども発達支援センターは、平成20年4月に開設された施設であり、「熊本市に居住する0歳から18歳までの発達に遅れや障がいのある子ども、またその疑いのある子どもと保護者」を対象に、相談支援や発達支援などの必要な支援を行っている。

また、当該施設に併設されている熊本市発達障がい者支援センターでは、熊本市在住の自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害などの発達障がいのある本人や家族に対して、関係機関などと連携し、「相談支援、発達支援、就労支援、普及啓発と研修」活動を行っている。

そこで、本県における今後の取り組みの参考とするため、これらの施設の概要と事業内容等について調査を行った。



(7) くまモンスクエア(熊本県熊本市)

調査事項：施設の概要について

くまモンスクエアは、熊本県が県の観光物産施設を改装して、本年7月にオープンした熊本県の観光・物産情報発信機能を持った交流スペースである。

同スクエアは、熊本県のキャラクターである「くまモン」に合うことができるくまモン営業部長室を初め、観光・物産等情報コーナー、交流スペース、県産品を中心とした、くまモンオリジナルグッズ販売コーナーなどを設けている。熊本県では、この施設を拠点として、くまモンと熊本県の多彩な魅力を情報発信し、熊本県のブランド力の向上を目指している。

そこで、本県における今後の取り組みの参考とするため、同施設の概要について調査を行った。

